

●鬱病の証し ●今年の予定

新年明けましておめでとうございます！

昨年12月24日の仙台グレースチャペルでのクリスマス・コンサートを、主の大きな導きの中で終えることができました。

お祈りありがとうございました！

コンサート後、久しぶりに札幌の実家に戻りました。今年80歳になる父は、夏は野菜作り、冬はスキーをエンジョイしており、とても元気です。また、今、グループ・ホームで暮らしている知的障害の妹も、お正月休みで家に帰ってきたので、久しぶりに家族団欒の時を過ごしています。

(写真: 札幌羊ヶ丘展望台の、「青年よ大志を抱け」で有名なクラーク博士像)



●鬱病の証し

この夏に企画されたゴスペル・ワークショップで証しをさせていただいた時、参加者の半分以上がノンクリスチャンと聞いていたので、いつもの伝道コンサートのように救いの証しをしました。でも、45分の持ち時間の中、救いの証しは、15分で終わってしまいました。気が付くと、その後私は、図らずも、クリスチャンになってから鬱病に苦しんだ時の証しを始めてしまったのです。それは初めて公の場で証しする内容でした。



後で分かったのですが、その時のワークショップには、クリスチャン、ノンクリスチャンを含めて、何人もの鬱病やひきこもりに悩む人々が参加されていたとのこと。私がどのようにして鬱病から脱却したのか、また、その苦しみの中で、キリストにある日々の救いと、すべての思いをキリストに委ねる生き方を学んだ証しは、救いに導かれた女性ばかりでなく、鬱病に悩んでいた多くの方々の方にダイレクトに響いたようです。

(写真: スイス、フンドヒルホーへの眺め、松林幸二郎さん撮影)

しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。(Ⅱ コリント 12:9)

昨年によく引用させていただいている聖句ですが、今年も、私の弱さのうちに働かれる主の偉大なみ力を、大胆に証しさせていただきたいと思っています。

●今年の予定

1. 出版

今年は、本の出版を予定しています。

私の半生記と、これまで、AKMM 季刊紙に掲載してきた「賛美のこころ」、メルマガ、月刊「ミッション・宣教の声」に掲載させていただいてきた「欧州の賛美を辿って」から抜粋してまとめた内容のものです。現在、その準備に取り組んでいるところですので、主に用いられる内容となりますよう、お祈りください。

2. アウシュヴィッツとルターとバッハを訪れる旅(4月11日～22日)

今年は、ポーランドのアウシュヴィッツを皮切りに、ベルリンや、ルターとバッハのゆかりの地であるライプチヒ、そしてワイマール、アイゼナハを訪れるツアーを計画しています。個人的に、アウシュヴィッツは、皆さんに是非一度見ていただきたいと思っている重要な場所です。また、ベルリンのペルガモ博物館では、文明の支配者である「この世の神」「暗闇の力」の現実を知っていただきたいと願っています。そして、暗闇に差し込んだ光である、ルターの宗教改革、信仰をもって教会音楽の頂点を築いたバッハのゆかりの地を訪問したいと思っています。内容は、[添付ファイル](#)をご覧ください。興味のある方、参加ご希望の方は、AKMM 世話人の中川庸子さんのメール aac97550@pop07.odn.ne.jp までご連絡ください。

3. 8月には、「ヨーロッパ・キリスト者の集い」(ミラノ、添付ファイル参照)、ブラジル・コンサートツアーを予定しています。どうぞお祈りください。ブラジルツアー予定は、以下の通りです。その後、9月の下旬か、10月の上旬来日予定です。

8月17日(金) オザスコ市立劇場、サンパウロ市から西へ20km。

8月19日(日) クリチーバ市立劇場、サンパウロ市から南へ450km。

8月24日(金) サンジョゼー市立劇場、サンパウロ市から東へ100km。

8月26日(日) サントアンドレ市立劇場、サンパウロ市から南東に50km。

8月31日(金) アリアンサ弓場農場劇場、サンパウロから西へ650km。

9月 2日(日) サンパウロ日本文化協会劇場、サンパウロ市の中心部。

4. 今年の上半期の多くを、霊的、肉적静養のために当てる予定です。この期間、主のみこころを深める時となりますよう、お祈りください。

今年も、工藤篤子音楽ミニストリーズの賛美伝道のために、お祈りお支えください！
2007年が、皆様にとって、恵みに溢れた年でありますように！

工藤篤子